

大海神社

大海神社は、住吉大社よりも古い神社である。元々は航海中の船乗りを守る強力な海の神、綿津見神を祀っていた。3世紀に神功皇后が住吉大社の創建を命じた際、大海神社の神主である田裳見宿禰に工事の指揮を依頼したという。日本で二番目に古い歴史書である日本書紀（720）によると、で田裳見宿禰は天皇の祖先とされる神、瓊瓊杵尊の子孫であるとされている。

田裳見宿禰は二人の息子に新しい神社の創建を任せた。彼らは津守（港を守る番人）という姓を与えられ、その子孫が明治時代(1868–1912)の宗教改革まで住吉大社を率いた。

大海神社は、住吉大社の本宮と同様の様式で建てられている。大海神社は、シンプルな直線的な切妻屋根の両端に交差した2本の木材を立てている。柱は朱塗り、外壁は白である。入り口は海に向かって西向きで、建物は外陣と神聖な内陣の2つの空間に分かれている。

大海神社に祀られている豊玉彦命と豊玉姫命は、どちらも海や航海安全に関係している。